

昨年に引き続き、全員でスキー合宿に行きました。みんな上手になりました。



おひやり

No.291
平成 29 年 3 月 10 日発行
社会福祉法人円福会
円福寺愛育園
園長 藤本光世

庫裡解体

園長 藤本光世

永年円福寺を支えてくれた庫裡を解体し、新築することになりました。



左は、愛育園の創設のころの昭和 23 年の写真と思います。庫裡の中間で食事をしています。父と母の間からちょこっと頭を出しているのが私です。まだ 1 歳になっていないかもしれません。写真撮影のために、中間で朝食をとったのでしょうか。普段はお勝手でした。父の左が祖母藤本せん、その左が愛育園で最初の措置児童（満州引き上げ孤児）の中村允良さんです。中村兄さんと呼んでいました。母の右側

はおまきおばさん。祖母の兄弟です。写真で数えると入所児童数は 7 人。男の子だけだったのでしょうか。）

半年ほどかけて、大きな庫裡の中にあつた、あるいは土蔵にあつた、歴史的な品々をすべて点検して、整理・整頓することが出来ました。（整理とは不要の物を捨てることです。整頓とはあるべき場所に分類して置くことです。）廃棄物は、トラック 15 台ほどになったと思います。

最初に、必要なものをしまう場所を作りました。まず、土蔵の 1 階を、不要物を捨て、必要なものを 2 階にあげて空にしました。新しいままの、手が付けられていない引き物は愛育園のプレハブに入れて、使ってもらうことにしました。次に初代園長が執筆したたくさんの書籍等をしまうプレハブを建てて、みんなの家にあつたすべてをそちらに移しました。さらに、昔の焼却炉の裏にあつたプレハブ物置の中を整理し、隣の敷地をお借りして、そこに移動して物を置けるようにしました。

物品の移動や廃棄に、愛育園の職員や子どもたちが献身的に、全力で手伝ってくれたことを、本当にうれしく感謝しています。子どもたちの力が無ければ整理・整頓はできませんでした。世のため人のために見返りを求めず手伝えるようになった子どもたちのおかげです。庫裡の改

築に子どもたちが進んで手伝っている姿を見て、父も、きっと喜んでいるでしょう。

事務室の高い棚で、古い文書が詰まっている奥深くの、開かずの扉のような書棚の中の書類を引き出してみると、創立間もないころ（昭和 27 年）の報告文書が出てきました。それはガリ版刷りで、一人一人の子どもの様子が丁寧に書かれていました。懐かしい名前がありました。ほおずきになったヒデ子ちゃんの名前もあります。懐かしい先生の名前がありました。母は 20 代、父は 40 代でした。定員は 20 名でしたが、28 名もの児童が入所していました。驚きました。昔は定員を超えても、入所させたのです。しかも今の愛育園の子どもたちの数は 34 名ですから、今とほぼ同じ数の子どもたちがあの狭い庫裡に住んでいたのです。定員を超えて子どもたちが住んでいたことは、それだけ児童養護施設が足りなくて県は困っていたのかもしれない。職員数は、園長の父（43）、指導員の市川仏乗先生（26）…予科練上がりでした…、そして母（26）の 3 名です。今のように労基法が勤務時間を定めている時代ではありません。休みなどありません。きっと毎日が、28 名もの子どもたちの世話で必死だったでしょう。それがいかに大変だったか、今は分かります。母の苦勞を思います。

創立三十年誌「愛の花園」に定員を 20 名（昭和 24 年）、30 名（昭和 27 年）にしたころの様子を父は次のように書いています。（140 p）



▲若いお母さんを囲んで（昭28年）

「そうすると円福寺の家庭どころか愛育園の子どもの方が多くなり、私が思っていた親鳥の翼の中にひな鳥を抱くどころの騒ぎではなくなってしまったのです。本堂は子どもの相撲場となり、卓球台が持ち込まれ、庫裡の障子の骨は折れ、大切な中国の石摺りの岳飛の書による出師之表の襖まで破られる始末となり、吾が子は愛育園の子どもたちに『和尚ьяんの子』だといじめられ、日当たりの良い部屋は全部子どもたちの部屋となり、家族は日陰の小さな部屋に閉

じこもらねばならなくなってしまい、円福寺の家風などどこかへ吹っ飛んでしまい、客間の二階にあつた子どもの部屋から、夜、時ならぬ雨が降ってくるような始末となりました。お寺の中は 30 人の子どもでゴった返し、家内が子どもに注意する声はしわがれて浪花節のような声になってしまいました。」

写真は、茶の間と呼んでいた部屋です。母を囲んで談笑しているところが写っています。私は、右から三番目で本を読んでいます。まだ年長さんです。母に抱かれているのが妹です。

愛育園の歴史の中でただ一人、小学校 2 年生で白血病で亡くなった子がいます。その子の思い出

と題した作文集が出てきました。のちに園長をされた当時の指導員の故石坂大先生が清書したものでした。私もこの子のことを覚えています。一人一人の作文をこの子を偲びながら懐かしく読み返しました。

いずれも、庫裡の解体が無ければ、見ることはできずこのまま埋もれてしまう文書でした。この子も、天国で喜んでいるでしょう。

庫裡の完成は平成 30 年 6 月です。平成 30 年は円福寺愛育園の創立 70 周年に当たります。平成 30 年は大きな節目の年になりそうです。その頃には、子どもたちがもっともって立派になっているでしょう。新しい庫裡と共に、子どもたちの姿を初代園長の父に見せることが出来れば嬉しいです。

スキー合宿

副園長 青谷 幸治

今年も白馬コルチナスキー場に 1 泊 2 日のスキー合宿に行ってきました。昨年と比べ天候も良く、大自然の中でスキーを楽しむことができました。

私はリフトにまだ乗れない小学生低学年を見ましたが、スキー板を担いで 20m ほど登り、スキー板を履いて滑る。これの繰り返しでしたが、ハの字で滑れるようになり怖さを忘れ楽しく滑っていました。2 日目には 7 人中 2 人しかリフトに乗せることができませんでしたが、それ以外は 200m ほどスキー板を担いで登り、一気に滑らすことができました。

皆は満足そうでした。来年は皆でリフトに乗ることを約束しました。

昨年以上にそれぞれが上達しており、スキーを楽しんでいることに実感できました。スキーの上達以上に嬉しかったことは、何があっても自分勝手な行動をせず、誰一人として迷子がいなかったこと。職員が困っていればすぐに中高生が手伝ってくれたこと（荷物を運ぶ、幼児や小学生の面倒を見るなど）。極めつけは、幼児 1 人をリフトに乗せ私と一緒に滑らせたときに 7～8 人の中高生と職員と一緒に滑ってくれ、回りを囲んでフォローしながら滑ってくれたことです。



幼児さんの応援をしながら、倒れたら起こし、スキー板が外れればはめてあげ幼児さんが滑りきったことに皆で満足できたことに中高生の優しさを感じました。2 日間のスキー合宿が終わり園に到着後、解散式を行いました子どもたちそれぞれが連れて行っていたことへの感謝が現れていました。この経験をまた明日からの生活や目標に向けて取り組んでほしいと思いました。子どもたちに付き合い 2 日間滑り通しでした先生方ありがとうございました。しっかり身体のケアをしましょう。



スキー合宿

主任保育士 石崎早織

今年も 2 月 18 日、19 日に白馬コルチナスキー場へスキー合宿に行ってきました。今年は天気にも恵まれ、快晴の中、思い切り滑り楽しい時間を過ごすことが出来ました。

今年も 2 回目ということもあり、準備やしおりの読み合わせもスムーズでした。また去年のこの行事が子ども達の中でも、とても楽しい思い出



になっていたの、子ども達と話をするたびに、「早く行きたいな～」「今年は上手に滑れるかな～？」など会話を聞いているだけでも楽しみにしている事が十分伝わってきました。楽しい行事にするためには、毎日の生活を頑張ろう！！ということは毎回の行事の前に言ってきているので、今回も行事が近づくにつれ、より一層頑張る様子が伺えました。その為、2 日間も集団行動を乱す子どももなく、みんなが楽しく滑れるように、各班で

まとまって行動し、協力し合う姿が見られました。また今回も初めてスキーに挑戦する子もいました。一人でも多く滑れるようになってほしいという職員の願いが中高生にも伝わり、幼児のS君が初めてリフトに乗ることを知るとみんなと同じ場所に集まり、上からサポートしてくれ、安全に滑れるよう職員と一緒に動いてくれました。自然にこのような行動がとれる子ども達にビックリしながらも、みんなの優しさが伝わり、とても嬉しかったです。

行事を重ねるたびに、子ども達のよい所をたくさん発見できるので、そういった意味でも行事の大切さを感じる事が出来ます。次は卒園式です。愛育園の力を一つにし、最高の卒園式になるよう、準備をしていきたいと思っております！！

スキー合宿

あおぞら保育士 富沢正樹

2月18日、19日にスキー合宿行事に行ってきました。

皆で白馬のホルチナスキー場に行き、2日間スキーやスノーボードを目一杯楽しんで来ました。私はスノーボードの班で5人の児童と一緒に滑りました。

スノーボードの体験が初めての子や、去年に引き続いて2回目の子達で、初日の午前中は、何度も何度も転んでばかりいました。腰や肩や首を雪面に打ち付け、傍から見ても痛そうでしたが、それでもめげることなく滑り続けていました。あまりに転んでばかりいるので、「ちょっと休憩しようか？」と聞いても、「大丈夫、早くリフト乗ろう」と元気よく答える子ども達のパワーはほんとにすごかったです。見ていると、上手く滑れない自分が悔しくて頑張っている様に思えて、楽しむというより、アスリートの様に練習している姿が印象的でした。以前なら「できない。」だから「もうやりたくない」と

いう様な子もいたのですが、スキー1つとっても、子ども達の様子は変わってきていることを感じました。

とはいえ、ひたすら初心者コースを滑っていたスノーボード班ですが、2日



目あたりからかなり上達してきたので、「思い切って上級者コースに行ってみよう」と提案すると、さすがに怯む子もいました。ですが、他の子達の「行ってみよう、行ってみよう」の声に後押しさ

れて行ってみると、急斜面とコブに苦戦し、恐怖心がありながらも、なんとか滑り下りてくることが出来ました。それで、初心者コースに戻ってみると、見違えるようにスイスイ滑りだす子もいて、話を聞くと「さっきのコースがすご過ぎて、こっちのコースが楽に感じる」と一言。「ちょっと大変だな」「自分には厳しいかな」と思う事に果敢に挑戦してこそ成長があるのだなあと改めて感じました。

2日間、滑りっぱなしで体力的には大変かなとも思いましたが、子ども達は終わりの時間が近づいてもまだまだ元気いっぱい、最高のスキー合宿となりました。

ホテルグリーンプラザやホルチナスキー場の皆さん、2日間、ありがとうございました。

『スキー合宿』

まごころ 竹内早季

冬の1大イベントのスキー合宿が行われました。インフルエンザが流行る中、体調が心配されましたが、無事病欠ゼロで参加することができました。私は低学年の初心者グループの引率でした。スキー経験ゼロの子ども達はスキー場の広さと人の多さに圧倒されていましたが、初めてのスキー板にワクワクしていました。インストラクターの方のお話も真剣な表情で聞いていましたが、いざ板を履くとなったとき、慣れない滑る地面に慌てて大騒ぎでした。ようやく板を履き、少しウォーミングアップをした後、リフトに乗ってコースに出ました。急な坂は板を持ってお尻で滑り降り、なだらかな所から少しずつ板を履いて滑り始めました。キャーと声を上げ転ぶ子が何人もいて心配になりましたが、ゆっくり下まで降りてくることができました。午後から、2日目までは板を持って歩いて登り、スキーでの滑り降りを繰り返し、なんとか基礎ができるように練習をしていました。その中で一番印象的だったのは、幼児から低学年が板を持って2日間で一番高い所まで歩き、滑る時に中高生たちが周りを囲んで応援したり、転んだ人を助け起こしたりしてくれたことです。最初板を履くだけで四苦八苦していた子ども達が教わった事を一生懸命やろうとしている姿や、進んで手助けをしてくれる中高生の姿にとっても感動しました。思いやりの心がたくさん見られたことが良い思い出だなあと思います。私自身、もっと練習して子ども達についていける様にさらに頑張っていかなければならないと思いました。また、ホテルでもバイキングや温泉など、普段過ごせない空間でみんなとわいわい過ごすことができ、貴重な体験をすることができました。二日間、無事に過ごせ、みんなで楽しめたことが本当に良かったと思いました。



スキー合宿

まごころホーム 保育士 加藤ゆかり

2月18・19日に、白馬コルチナスキー場に1泊2日でスキー合宿に行ってきました。去年は、インフルエンザにかかってしまい、スキー合宿に参加出来なかった子がいたと聞いて、今年はどうなるかと思いましたが、全員で元気に行ってくる事が出来ました。1日目の午前中は、初心者小学生5人とインストラクターの方に教えて頂きました。この5人のうち3人は、スキーの経験が全く無く、スキーを履くことすらとても大変でした。やっとの思いで、スキーを履き、

平らな場所でスキーで滑る感覚を掴み、いざリフトへ！初めてなので思うように止まれなかったり、転んだ時にスムーズに立ち上がれなかったり、上手い出来ないことはもちろん多々ありましたが、下に降りる頃にはコツを掴んでいる子もいて、上達の速さに驚かされました。午後も「もう1回リフトに乗りたい！」と一生懸命になだらかな坂で練習しました。少しずつではありますが、コツを掴んで、1日でとても上



達しました！夜は、美味しい料理が沢山並ぶバイキングで食事をし、素敵なお部屋で過ごしました。2日目は、私は小学生の男の子がいるグループと一緒に滑りました。小学生の男の子も、スキーの経験は少ないのに、みるみるうちに上達していき、私はついていくのがやっとなりました。午後は、中高生の女の子と滑りましたが、午前中同様、ついていくのがやっとなりました。子ども達の体力と、上達の速さには驚きました。来年は、子ども達に負けないように滑りたいな、と思いました。子ども達がとても楽しそうに、キラキラした笑顔でスキーを楽しむ姿を近くで見ることが出来、とても嬉しかったです。私も、かなり久しぶりのスキーでしたが、子ども達と楽しく滑らせて頂きました！諦めないで取り組めば、何事も上達する、成功する、ということを普段の生活にも活かして行ってほしいな、と思いました。園長先生、連れて行ってくださり、ありがとうございました。

スキー合宿

あおぞら保育士 佐々木 弘観

白馬コルチナスキー場へ1泊2日でスキー合宿に行ってきました。去年は残念なことにインフルエンザで行く事ができない子が何人かいました。今年全員で行けるように、手洗いやうがいをしっかりやっていこう！と伝えていましたが、皆のおかげで、今年のスキー合宿は誰1人かけることなく全員で楽しんでくる事が出来ました。

この日のために子ども達は体調管理をしっかりとやり、学校の図書館でスキーの滑り方が載って

いる本を借りてきて勉強したりと、本当にスキー合宿を楽しみにしているという事が伝わってきました。

合宿当日、スキー場に着くと少し雪が降っていましたが、次第に太陽が出てきて、それ以降崩れる事も無く、この2日間は素晴らしい天候に恵まれました。去年は2日目が雨だったため滑る時間が少し短かったですが、今年は1日目から2日目まで最高の天気の中みっちり滑って楽しむ事が出来ました。終わる事には職員も含めて皆へろへろになっており、充実したスキー合宿だったと思います。

その中でも、中高生の子達は率先して重い荷物やレンタルの板を運んでくれたり、他の子の中々履けないスキーのブーツを履かせてくれたりと協力してくれる姿がたくさんありました。

他にも、初めて滑る子が怪我をしない様に何人もサポートしてくれていたりと、皆で行って皆で楽しむ事ができた大成功のスキー合宿でした。

スキー合宿 あおぞら児童感想

2月18日、19日にスキー合宿に行きました。最初は感覚を思い出すために、ゆるやかなコースを滑りました。低学年の子は何回も転んでいたのが励まされたり、支えたりして滑りました。僕はそういう滑り方が一番いいと思いました。

そのあと、第三リフトのカモシカコースというコースに挑戦しました。カモシカコースは30度という角度でした。何とか滑って滑ることができて嬉しかったです。ホテルに戻ると温泉に入ったり、夕飯はバイキングを食べたり、とても嬉しかったです。二日目もたくさん滑って、最高の二日間でした。来年も楽しく安全なスキー合宿をしたいです。

(小六 H. A)

スキー合宿がありました。今まで野球班の活動が忙しく、最初で最後のスキー合宿でした。2日間滑り倒そうと心に決めていました。

今年、人生初のスノーボードに挑戦しました。やる前までは簡単に滑れるものだと思います。

けれど現実には厳しく、他のみんなは転びながらも滑っていくのですが、自分はただ転げ落ちて



いっだけになってしまいました。リフト一本乗っただけで、体も心もボロボロでした。口では「めっちゃ楽しい」と言いつつ、内心は違いました。でも、上手く滑れるようになりたいと思い頑張りました。どうやったら上手く滑れるか、お昼ご飯を食べている時もずっと悩んでいました。その後、何本もリフトに乗って、なんとか滑れるようになりました。

2日間で転んだ回数は、僕が一番多いと思います。でも、あきらめず頑張ったからこそ最後には楽しめるようになったのだと思います。卒園まであと少し。みんなにとって良い手本に慣れるように全力で頑張っていきたいです。(高三 T・I)

2月18日19日に白馬コルチナスキー場で一泊二日のスキー合宿に行きました。私はスキーがあまり得意ではないので、不安だったり、楽しみだったり頭の中がごちゃごちゃでした。1日目は小学校高学年チームで初級コースを滑りました。私はよく直滑降で滑ってしまうのでクネクネ曲がりながら、滑る練習をしました。2日目は上級コースにも挑戦しました。夜寝ている間に雪がたくさん

振ったせいか、雪がとっても積もっていて雪で足がとられて大変でした。生まれて初めての上級コースだったので、無事に降りてこられるかとても不安でした。山の上から下を見ていると下が見えないくらい急で、私はもう降りられないと怖がっていましたが、佐々木先生にも手伝ってもらったり、滑り方を教えてもらおうとコツを掴みましたが、足に力を入れて踏ん張るのが、とても足に負担がかかりましたが、最後まで諦めずに丁寧に滑りました。この1泊2日のスキー行事を通して、私は努力(挑戦)してみれば、成果に繋がることを学びました。そのことから、私はもし、スキーをやる機会があったら、もう一度上級コースに挑戦し、スキーの技術を磨いてもっとスキーが上手になれるよう頑張りたいです。(小6 H・W)



スキー合宿に行きました。初めてで怖かったけど、インストラクターの先生に教えてもらいました。初めてなのに、インストラクターの先生にうまいと言ってもらえました。先生に教えてもらった事を思い出しながら上から滑ってたら1回しか転びませんでした。リフトは8回くらい乗りました。いっぱい滑れて楽しかったです。(小2 T・Y)



2月18日19日に白馬コルチナスキー場でスキーをし

ました。去年も行ったけど、あまり上手に滑れませんでした。八の字にするのが難しかったし、自分で止まることも出来なかったです。でも日詰さんや青谷先生に教えてもらって、八の字で自分で止まる事が出来るようになりました。出来なかった事が出来るようになったら、怖くなくなり、楽しく滑れるようになりました。来年はたくさんリフトの乗れるように上手に滑りたいです。(小3 U・S)

第3回箸りんピック

主任保育士 石崎 早織

2月4日に開催された第3回箸りんピックに円福寺愛育園の児童代表6名と一緒に参加させて頂きました。子ども達はこの代表メンバーに選ばれる為、練習はもちろんですが、日々の生活も頑張っていました。去年はメンバーに選ばれず悔しくて泣いてしまう子どももいましたが、今年はまた去年とは違い、選ばれず悔しい気持ちもありながらも、選ばれた代表メンバーを一生懸命応援する姿もあり、子ども達の心の成長を感じる事が出来ました。大会当日は会場に着くまで緊張している様子もなく、みんなでたくさん話をし楽しい時間を過ごすことが出来ました。会場に着くとだんだんと緊張してきたようでしたが、個人戦の予選では落ち着いていつも通り集中して取り組んでいました。ただ今年は決勝に行けるのが3名だった為、みんな必死に豆を運んでいました。結果愛育園の児童3名が決勝に進むことが出来ました。決勝戦では周りの方に見守られ、緊張の空気が漂う中、最後まで一生懸命取り組んでいました。また決勝に進めなかった子も、みんなを応援する姿がありました。団体戦では愛育園の団結力と集中力の強さで圧勝し、3連覇することが出来ました!! 毎日の頑張りが結果に出ると、子ども達の自信に繋がり、生活のハリにもなると思います。次回もよい結果に繋がるよう、頑張りたいと思います。



箸リンピック

あおぞら保育士 富沢正樹

2月4日、国際箸学会の主催する、第3回箸リンピックに参加してきました。

一週間前には園で選考会を兼ねた箸ピー大会が行われ、6名の児童が選抜されました。

選抜された6人はどの子も、箸ピー大会の記録だけでなく、普段の日課や、毎日の練習で頑張っていた子が選ばれました。とはいえ、どの子も本当によく練習して、記録もよく、また、箸リンピックに行きたいという気持ちから一生懸命何事にも頑張っていた為、毎年、選考には頭を悩ませます。とりわけ今年に関しては、本当に一生懸命頑張る姿が多く見られ、誰を連れて行くか、選ぶのに一苦労でした。

私が印象的だったのは、園長先生から、選抜メンバーの発表があった時の児童の様子です。去年、

発表があった時は選ばれなかった子が、悔しくて泣いてしまったり、自分が行けない事を残念がる姿が多く見られました。去年、その姿を見て、本当に一生懸命に取り組んだからこそその姿だなぁ感じたのですが、今年は、発表された時の選ばれなかった子たちが、清々しく選ばれた子を祝福し送り出してくれました。児童一人一人が本当に「やり切る」と、こういった雰囲気になるのだなど、選抜メンバーの発表の場でも、今年が去年以上に力を入れて取り組んでいた事が分かりました。

当日、選抜された6人のメンバーは、朝早くから、会場のある埼玉県川口市まで向かいました。去年、苦戦しながらもなんとか優勝できたHさんは、圧巻の318個で2連覇する事が出来ました。他の子も素晴らしい集中力を見せて、1位から6位まで愛育園の子の名前がズラリと並びました。団体戦でも優勝することが出来たのと、愛育園Bチームとして園長先生と職員、箸学会の方の混合チームでも、児童メンバーの補欠と一緒にいったNくんが素晴らしい頑張りを見せて、2位に入ることが出来ました。3位のチームと落花生2個差の大接戦でものすごい盛り上がりでした。

園内だけでなく、園の外でも活躍できたことが、それぞれとても大きな自信になったように思います。この経験を、日常の中でも活かせるようにまた子ども達と頑張っていきたいと思います。



国際箸学会の皆さん、良い経験をありがとうございました。

箸リンピック児童感想

今日は箸リンピックに行きました。埼玉まで行きました。途中のサービスエリアで練習しました。本番はとても緊張しました。でも、右手では今まで最高の161個出すことが出来ました。左手はいつもなら110個いくのに、100個しかいきませんでした。合計は261個で、4番目だったので決勝にはいけませんでした。来年はもっと早くになりたいです。

団体戦では優勝することが出来ました。個人戦では、豆を箱から落しちゃったけど、団体戦では落とさずできて良かったです。

(小三 Y・Y)

僕は今年初めて箸リンピックに行きました。補欠だったけど行けました。会場に着いたら緊張しました。本番前になるともっと緊張しました。いつもより記録が出せなかったけど6位になる事が出来ました。団体戦では、急にBチームを作って、僕も出ました。心臓がバクバクなるまで緊張しました。僕はアンカーをやって2位になる事が出来ました。3位のチームと一秒差でした。

行けなかったみんなの分も頑張れて良かったです。

来年は補欠でもいいけど、ちゃんとレギュラーとしていきたいです。その為にも普段の生活をしっかりして行きたいです。

(小六 N・M)

2月4日に埼玉県川口市で箸りんぴくが行われました。私が心に残った事は2つあります。1つ目は個人戦で2位になれた事です。一回戦目ではあまりいい記録を出す事が出来なかったけど、2回戦目合計で282個でした。今年は決勝戦に出られる人が3人でした。決勝戦の時は一発勝負だったので、とても緊張しました。二つ目は団体戦で優勝できたことです。予選では私は2番手でした。とても緊張して少し遅くなったけど予選では一位になりました。本戦では緊張しすぎて私は豆を落としてしまいました。でも優勝することが出来ました。個人戦では優勝できなかったけど、2位になれて良かったです。来年も箸りんぴくに行けるように普段の生活も頑張りたいです。(小4 S・Y)

2月4日に第3回箸りんぴくが行われました。私は緊張でいっぱいでしたが、応援してくれる人もいたので、一生懸命頑張りました。2回目の参加だったので、知っている人も多かったです。本番になると緊張もほぐれ、300個を超す記録を出すことが出来ました。今年は決勝戦が3人しか選ばれず、とてもドキドキしていましたが、私も選ばれました。決勝戦ではいろんな人に見られていて緊張しましたが、結果2度目の優勝をすることができました！嬉しかったです。来年も優勝目指して頑張りたいです。(小6 H・W)

バレンタインチョコレート作り

栄養士兼調理員 原 未華

2月14日はバレンタインデー。愛育園でも一足先にバレンタインデーチョコレート作りをしました。まごころの女の子たちが各自で調べてきたお菓子を作るということでわくわくドキドキしながら、バレンタインデーチョコレート作りスタート。

甘い香りが食堂中に広がる中で子どもたちは大忙し。全員が無我夢中になって、真剣に取り組んでいました。お菓子作りはなかなか難しいもので、チョコレートが固まるのに時間がかかり、自分の思い通りにいなくて形が少し崩れてしまうこともありました。

確かに見た目や形は大事です。でも、一番大切なのは渡す人のことを思って作る事、作った自分自身の気持ちが相手側に伝わる事だと思います。「上手く出来たからいい」はお菓子を作ってあげる意味がありません。

形はどうあれ、時間をかけて、手間をかけて、丁寧に一生懸命作ったお菓子をもらうのは誰しもがうれしいものです。ただ、作るのではなく、「心を込めて作る」お菓子作りをしている子どもたちの姿を見て改めて思いました。時間はかかったものの、それぞれが買って来たかわいいラッピングをして、最後までやり切った子どもたちは本当にすごいと思います。少しの失敗はお菓子作りの楽しさにつながるものです。

心温まる楽しい時間でした。